



第85巻 第4号
年4回発行
社会福祉法人 慈生会
〒165-0022
東京都中野区江古田3-15-2
TEL 03-3387-5567
<http://www.jiseikai.jp>
振替口座 ベタニアの家
00170-6-15317

田んぼで苗を育てるように

堀田しのぶ

徳田保育園は、0歳児から5歳児まで定員112名の保育園です。ほとんどのお子さんが1日の3分の1にあたる8時間を保育園で過ごしています。人生の土台を築く大切なこの時期の多くの時間をお預かりすることに、責任の重さと成長を見守ることができる喜びを感じながら日々を過ごしています。昨年度受けた福祉サービス第三者評価の利用者アンケートでは、大変満足55%、満足38%、どちらともいえない6%という結果で多くの方にご満足いただいていることがわかりました。アンケートの中でいただいたコメントを参考にして、さらにご利用の皆様にご信頼いただきながら、子どものたしかな成長の土台づくりのお手伝い

ができるよう努力を重ねています。

そんな中、子どもの主体性を尊重する保育に取り組み始めて2年目。保育園という集団生活の場で子どもの主体性を尊重するとはどう保育を行うべきなのか、子どもからの発信がすべてなのか、大人からはどう発信するのがいいのかなど悩みました。主体性というと、自分の考えを発信して前向きに取り組む、責任をもって最後までやり通すことのように考えがちですが、人はいつでもそんなに前向きにばかりいられませんし、それは子どもも同じです。家庭での出来事、体調、友達との関係などにより、少しのんびりしたいとか、気持ちがざわざわして落ち着かないとか、日によっていろいろなコンディションがあります。それも含めて一人一人の姿であり、それを理解して寄り添い、成長を支援することが主体の子らしさを大切にすることが主体

性を尊重するということなのだと言動保育士全員が受けた研修で学びました。(余談ですが、最近はオンデマンド配信で視聴できる研修が増え、大変助かっています。)そのことを改めて考えると、その子らしさを理解して支えるというのは、慈生会の誓い「キリストの愛に基づいたもてなしをします 一人ひとりのいのちを尊び 人格を大切にします」に通じるものであると思います。主体性を尊重する思いは、既に私たちの中にあつたのです。そして思い出したのが、今年度の職員に向けた理事長講話で紹介いただいたフロジャック神父様の言葉です。徳田保育園の名前の由来を聞かれたフロジャック神父様は、いろいろな冗談を挟みながら「徳をつみながら、田んぼで苗(子)を育てるんだよ」とおっしゃったとのことでした。その思いを改めて胸に刻み、これからも保育園の環境の中で、子ども自身が自分らしさを大切にして友達と共に成長できるように見守り、人のために地域のために丁寧に働き続けていこうと思います。

(徳田保育園 施設長)



江古田の森公園にて

勤続30年表彰を受けて

染治 佳子

このたび30年表彰をいただき、誠にありがとうございます。30年間勤め続けることができたのは、多くの皆様に支えていただいたおかげです。心より感謝申し上げます。

平成8年に慈生会病院へ就職し、その後、慈生会本部、徳田保育園へと異動しさまざまな職場で多くの経験を積む機会をいただきました。



また、出身地である鹿児島県奄美大島でベタニア修道女会の宣教活動を通して、慈生会とのご縁をいただいている、多くの出会いに恵まれ、

貴重な学びを重ねることができました。

30年という節目を迎えられたことに感謝するとともに、これまで支えてくださった皆様への感謝の気持ちを忘れず、これからも初心を大切にしながら、慈生会の一員として一つひとつの仕事に誠実に取り組んでまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(徳田保育園 主任)

マ・メゾン光星の夏祭り

田中 章介

今年も夏祭り実行委員として、夏祭りを盛り上げる大役を任せられました。昨年の反省を踏まえ、今回は特に計画的に進めていくことを心掛けました。

今年は利用者の皆さんの特性により配慮した「五棟体制」が始まったことを受け、多動な方々と歩行が不安定な高齢の方々が小さなスペースで一緒にならないよう、棟単位でのタイムスケジュール作成に細心の注意を払いました。これにより、利用者の方々のストレス軽減や、転倒な

どのリスクを未然に防ぐ狙いがありました。

各棟でオリジナルの神輿(みこし)や山車(だし)を制作し披露するという企画は、今年のマ・メゾン夏祭りの大きな目玉の一つとなりました。その他の出し物には、射的や輪投げ、くじ引き、ヨーヨー釣りを用意しました。



当日が近づくにつれて手作りの神輿や山車が徐々に形になり、利用者の方々が自ら描いた絵や色とりどりの折り紙で飾り付けをしていく様子に、施設全体が活気づいていったのがとても印象的でした。また、竹の切り出しから段ボールの組み合わせに至るまで、支援員と利用者の方々が一丸となって本気で制作に打ち込む姿が見られました。完成した五つ

の神輿と山車は、各棟の特色が色濃く反映された素晴らしいものとなりました。神輿に乗っているのが神輿、乗っていないのが山車と言われますが、どの作品にも神様がびっくりするほどの個性がギュッと詰まっていました。

実行委員長としては、実行委員のそれぞれが必要なことに気づき、私の知らないところでも準備をしっかりと進めてくれたことが大変頼もしく、印象に残っています。具体的には、朝礼での情報共有をはじめ、法被(はっぴ)や景品の用意、会場のデコレーション、ボランティアの方々との連携、ポスターやメダル、賞状の制作など、多岐にわたる業務を自発的に進めてくれました。

さらに、その他にも多くの方々から多大なご協力をいただきました。太鼓教室の演奏に支えられた盆踊り、給食によるおいしい焼きそば、営繕や医務の方々が用意してくださった色とりどりのかき水など、誰もがそれぞれの形で楽しむことができました。

ご協力いただいたすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

(夏祭り実行委員長)

地域とともに育む納涼祭 〜笑顔あふれる夏の日〜

東 城 織 絵

今年も皆様に親しまれている納涼祭を開催しました。本行事は、毎年自治会の皆様とベトレヘム学園が力を合わせ、準備から運営まで協力しながら作り上げている大切な催しです。

開催に向けた準備では、有志の子どもたちが会場設営を手伝い、当日も出店の補助を担うなど、祭りを支える一員として活躍しました。終了後の片付けまで進んで参加する姿からは、自分たちが地域の行事を支えているという意識や責任感、やり遂げた達成感が感じられました。

当日は天候にも恵まれ、多くの地域の皆様が来場してくださいました。子どもも神輿では、元気な掛け声とともに町内を練り歩き、沿道から送られる温かな声援や手拍子を力に変えながら、最後まで力強く担ぐ子どもたちの姿が印象的でした。

会場内の出店も大変な賑わいを見せました。子どもたちは出店に目を輝かせ、小さな手にお金を握りしめ自分で買った喜びを味わい温かな雰囲気包まれていました。

出店の商品はすべて完売し、当日

の運営ではボランティアの皆様にも多大なご協力をいただき、円滑に行うことができました。夕方からは太鼓の演奏に合わせて盆踊りが始まり、子どもから大人までが一つの輪となって夏のひとときを満喫しました。締めくくりには、子どもたちが毎年楽しみにしている「ジンギスカン」の曲が流れ、会場全体が一体感に包まれ、笑顔と笑い声の中で納涼祭は幕を閉じました。

祭りの終了とはほぼ同時に激しい雨が降り始めましたが、すべての催しを無事に終えることができたことに安堵するとともに、天候にも恵まれた一日に感謝する思いでした。

今年の納涼祭も、自治会の皆様をはじめ、ボランティアの皆様、多くの方々の支えによって開催することができました。地域とのつながりを改めて実感するとともに、子どもたちにとっても、人との関わりや地域の温かさに触れる貴重な機会となりました。

(ベトレヘム学園保育士)



「利用者作品展」

富 田 浩

2026年8月に「第15回 清瀬市内 老人ホーム・デイサービス利用者作品展」に参加しました。

参加する事業所は、清瀬市内にある養護老人ホーム・軽費老人ホーム・特別養護老人ホーム・グループホーム・デイサービスの10施設が参加しました。

出展作品は、絵画、書道、陶芸、デッサン、水彩画、手芸、折り紙、手編みバッグ、洋服など多岐に渡る素晴らしい作品がならびました。

各施設の共同作品や個人作品など生きがい作りやリハビリの成果を表す場として毎年開催しています。



鉛筆デッサンです



作品を作る不安やドキドキが徐々に安心から楽しみに変わり、見る喜びと見られる喜びから、また作る励みへとつながっていると思います。

作品を展示する際、各施設の職員の素敵な装飾にも感動しました。開催期間中には、出展している事業所はもちろんのこと、各関係機関や一般の方々を含め、三日間で307名の来場者で会場は賑わっていました。

清瀬市長と副市長にもご来場いただき、各施設の作品案内をしながらゆっくり見ていただきました。

これからも老人ホーム施設長会の連携を図り、地域住民のニーズに応える取り組みを展開することで、地域からも愛される施設作りを目指して参ります。

(聖家族ホーム 施設長)

「食料を捨てるなら、貧しい人の食卓から奪うことになる」
 (回勅ラウター・シ 50)

世界の中心にはいつも貧しい人々のいのちの営みがあり、大地が損なわれて真っ先に心身に被害を受けるのは貧しい人々です。創造された人間としての責任、地球の全ての創られた被造物、一人ひとりの尊厳、他者のいのちを大切にすることは、現在一刻の猶予もありません。

「食料のロスと廃棄に関する啓発の国際デー」 9月29日

食料用の3分の1がフードロス。世界の極度の貧困約8割が農村で雨季のみで生計を立てており、また食料を輸入に頼っている国では、生活費に占める食費の割合が高く食材の安い物、栄養の偏った食事で空腹を凌いでいます。今、世界の穀倉地帯での戦争で国際価格が高騰、低所得者に困難な状態になっています。反面、世界では大量に捨てられているのです。食用食料の3分の1の13億トンが廃棄。日本等の先進国で「食べ残し」「賞味期限切れ」等消費段階で捨てられる食物が多く、一方開発途上国では多量に収穫出来ても



適切な保管が出来ず、加工技術が十分ではなく、流通の為の手段やガソリンを買うお金が無い事で、必要の人に届く前に無駄になっています。日本でさえも、人口の15%約1850万人は、世帯所得が中央値の半分未満の生活の状態になっています。

飢餓ゼロ「世界食料デー月間」
 10月1日〜31日

つまり昨年度の世界の飢餓人口は約6億4千5百万人、13人に1人が飢餓に直面していますが、食物が足りないのではなく、在庫も有る。世界人口83億人に、均等に分配されていけば十分に食べられるのです。環境と貧困、強いては食料問題等物をバラバラに扱わず問題の「根」やその関係性を総合的(インテグラル)に見直すことが大切で、現在教会・修道会・学校では、「干ばつ」等を起こす温暖化の対策に、まず身近で出来る事、ゴミの削減(特にプラスチック)、生ゴミの堆肥化、食事の買い過ぎ作り過ぎをしない、残り物を捨てない等の事を、引き続き取り組んでいます。

(ベタニア修道女会 Sr 藤原)

『那須地区 光星祭』
 開催のお知らせ
 那須地区光星祭を開催致します。皆様のご来場をお待ちしております。

開催日 令和八年十月四日(日)
 時間 午前10時〜午後二時
 場所 栃木県那須郡那須町大字豊原乙 一一八九(マ・メゾン光星)

連絡先 0287-777-1013

『清瀬地区 どんぐり祭』
 開催のお知らせ
 清瀬地区どんぐり祭を開催することになりましたのでお知らせ致します。皆様のご来場をお待ちしております。

開催日 令和八年十一月三日(火・祝)
 時間 午前10時〜午後二時
 場所 慈生会清瀬地区
 主催 どんぐり祭実行委員会
 (042-491-2529)

『ベタニアの家チャリティーコンサート』開催のお知らせ
 ベタニアの家チャリティーコンサートを開催いたします。皆様のご参加とご協力をお願いいたします。

日時 令和八年十二月十一日(金)
 場所 カトリック徳田教会
 出演 黒田晋也氏、黒田聡子氏
 チケット 三千円(自由席)
 チケット&申込問い合わせ (福) 慈生会 法人本部事務局内
 ベタニアの家チャリティー
 コンサート実行委員会
 電話番号 03-33387-5567

編集後記
 八月五日のベトレム学園の創立記念の月であり、こどもたちの夏休みが終わりを迎える八月の最終週に平和と感謝のミサとお楽しみ会をしました。そのなかで今年の八月五日で九十二周年を迎え

たことを話しました。お楽しみ会では、この夏の思い出をスライドショーで振り返り、夏休みが終わるのだなと実感する時間でした。もう始まっている子どもたちもいましたが、二学期からの幼稚園、学校を頑張ろうという気持ちにもなれたようです。(関 広宣)

私の両親は90歳を超えており、二人はそれぞれ同じ戦争の時代を異なる場所生きてきました。その体験談を二人が元気なうちに聴いておこうと、教会の平和旬間行事で両親がその頃を語る機会を与えていただきました。自分の両親ではありますが、どのような経験をし、その時何を感じたのか。両親があえて語ることも、私達も聴く機会を持てなかった言葉を聴けたのは、とても貴重な時間でした。教会の皆様にも心から感謝いたします。

(杉山 智和)

日本のカトリック教会では、9月1日から10月4日を「すべてのいのちを守るための月間」と定めています。またこれと同じ期間に、私たちと創造主である神との関係、そして全被造物との関係について教派を超えて思い起こすための「被造物の季節」(Season of Creation)というエキクメニカルな行事が全世界で行われています。今年のテーマは「いのちの水」でした。近年、日本でも水の汚染、気候変動による台風の巨大化と豪雨災害、積雪量の減少による水不足など水の問題に直面しています。私たちは水や大気、すべての被造物が神からの賜物であること、それらの被造物を守ることはわたしたちの責任であることを思い起こしたいと思います。そして、行動をもって未来の子どもたちに豊かな地球のパトンを渡すことができますように。勇気をもつてともに一歩をふみ出しましょう。

(Sr 川鍋 眞澄)